

SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度選定

富山県

2021年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

富山県SDGs未来都市計画

—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

富山県SDGs未来都市計画

(2) 2030年のあるべき姿

環日本海地域をリードする「環境・エネルギー先端県とやま」

- ①世界に誇れる雄大な「立山黒部」や「世界で最も美しい富山湾」など美しい山と海を有し、豊かな水の恵みを活かして持続的な経済発展を実現する県
②「富山物質循環フレームワーク」の実現に向けた「とやまモデル」が確立した県

(3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	立山黒部アルペンルートへの外国人観光客数	2017年 263,000 人	2020年 600 人	2030年 420,000 人以上	-167%
2	観光地入込数（富山湾岸エリアの主要観光地・観光施設）	2017年 300 万人	2020年 187 万人	2030年 339 万人	-290%
3	県産代表6魚種の産出額（税抜）	2016年 46 億円	2019年 39 億円	2030年 54 億円以上	-87.5%
4	小水力発電の整備箇所数	2019年2月 48 箇所	2020年 50 箇所	2030年 60 箇所以上	16.7%
5	一般廃棄物再生利用率	2016年度 25.6 %	2019年度 26.0 %	2030年度 28 %以上	16.7%
6	食品ロス削減のための取組みを行っている人の割合	2018年度 70.1 %	2020年 81.3 %	2030年 90 %以上	56.3%
7	水質に係る環境基準の達成率	2018年3月 100 %	2020年 100 %	2030年 100 %	100%
8	県内市町村が実施した清掃美化活動の参加者数	2015年度 24 万人	2020年度 10.1 万人	2030年度 25 万人以上	-1390%
9	里山林の整備面積（累計）	2017年度 2,844 ha	2020年 3603 ha	2030年 4,600 ha以上	43.2%
10	優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の植栽面積（累計）	2017年度 62 ha	2020年 129 ha	2030年 500 ha以上	15.3%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

（5）「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

・新型コロナウイルス感染症の影響で外国人観光客数、主要観光地・観光施設の入込数が大幅に減少。今後は新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら誘客活動を展開、富山湾の魅力を活用した高付加価値化の取組みをさらに進め、国内外への魅力発信による観光振興や地域活性化を図る。

・一部の魚種の漁獲量減の影響で産出額は減少。ホタルイカ、シロエビ、高志の紅ガニ、ブリを中心として「富山のさかな」のブランド化を一層推進する。

・食品ロス削減推進計画（R2.4）の策定や食品ロス削減全国大会の開催（R2.12）を契機として、今後より一層の食品ロス削減の取組みの加速化を図る。

・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、多くの清掃イベントが中止・縮小。少人数での自主的な活動の促進や、楽しみながらの清掃活動の普及等新たな仕掛けづくりが必要。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2021年目標値	達成度(%)
1	「立山黒部」の世界ブランド化	立山黒部アルペンルートへの外国人観光客数	2017年 263,000 人		2019年 240,400 人	2020年 600 人	2021年 360,000 人以上	-271%
2	国際的ブランド「世界で最も美しい富山湾」の活用	観光地入込数（富山湾岸エリアの主要観光地・観光施設）	2017年 300 万人		2019年 335 万人	2020年 187 万人	2021年 312 万人	-942%
3	水産業の振興と富山湾のさかなのブランド力向上	県産代表6魚種の産出額（税抜）	2016年 46 億円		2018年 36 億円	2019年 39 億円	2021年 50 億円	-175%
4	再生可能エネルギーの導入、新たなエネルギーの利用に向けた開発の促進	小水力発電の整備箇所数	2019年1月 48 箇所		2019年 49 箇所	2020年 50 箇所	2021年 53 箇所	40.0%
5	循環型社会・低炭素社会づくりの推進	一般廃棄物再生利用率	2016年度 25.6 %		2018年度 26.7 %	2019年度 26.0 %	2021年 27 %以上	28.6%
6	「富山物質循環フレームワーク」の実現に向けた「とやまモデル」の確立	食品ロス削減のための取組みを行っている人の割合	2018年度 70.1 %		2019年 80.9 %	2020年 81.3 %	2021年 80 %	113.1%
7	立山黒部をはじめとする雄大で美しく豊かな自然環境の保全	水質に係る環境基準の達成率	2018年3月 100 %		2019年 100 %	2020年 100 %	2021年 100 %	100%
8	清らかな水資源の保全と活用	県内市町村が実施した清掃美化活動の参加者数	2016年3月 24 万人		2019年度 24.2 万人	2020年度 10.1 万人	2021年 25 万人	-1390%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2021年目標値	達成度(%)
9	水と緑の森づくり	里山林の整備面積(累計)	2017年度 2,844 ha		2019年 3,359 ha	2020年 3,603 ha	2021年 3,600 ha	100.4%
10	水と緑の森づくり	優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の植栽面積(累計)	2017年度 62 ha		2019年 99 ha	2020年 129 ha	2021年 200 ha	48.6%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

- ・令和2年度については、自治体SDGsの推進に資する各種取組を推進。また、県民のSDGsへの理解を深め、県内市町村、企業、NPO法人等のSDGsに向けた取組のより一層の促進に向けて、県民一人一人がSDGsを自分事として捉え、取り組むきっかけとしていただくフォーラムを開催し、県民のSDGsの意識向上を図った。(県政世論調査 SDGs認知度 R1:21%→R2:35.3%)
- ・R3年度からの宣言制度を実施するため、他県等の制度等を参考に、制度設計を行った。(R3年7月から宣言制度の募集を開始し、新たに開設した専用ウェブサイトにおいて掲載を開始し、SDGsに取り組む企業等の「見える化」を図っている)

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- ・三大都市圏での「富山のさかな」PRイベント等を開催し、「富山のさかな」のブランド化(知名度の向上等)に取り組んでいる。魚価は漁獲量に左右される部分はあるが、ホタルイカ、シロエビ、高志の紅ガニ、ブリを中心として引き続き「富山のさかな」のブランド化の推進に努め、水産業の振興に活かしている。また、里山林の整備面積(累計)は順調に整備が進捗し、2021年度の目標値を達成している。
- ・レジ袋削減等による容器包装廃棄物の排出抑制、使用済小型家電や店頭回収された資源物等のリサイクルによる循環的利用を進めているが、目標の達成には集団回収や民間事業者による回収など資源回収の強化等を引き続き実施する必要がある。
- ・富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議を核とした全県的な食品ロス等削減運動(とやま食ロスゼロ作戦)の展開により、2021年度の目標値を達成。引き続き、他の世代に比べ食品ロス問題の認知度が低い若者層への働きかけや、消費者への商慣習見直しに関する周知啓発に努めるなど、食品ロス削減の取組みの実践に繋がるよう働きかけを行う。
- ・提案時のモデル事業の内容については、該当なし(全体計画の「自治体SDGsの推進に資する取組み」として実施。)

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・富山県は海と山という素晴らしい資源を持っており、上手く活用した計画となっている。「富山物質循環フレームワーク」は重要な取組であり、リサイクルからサーキュラーエコノミーに持ち込む、大きいエンジンが必要。大きなフレームワークを使い、サーキュラー型の産業に作り替えていくことを目指してはどうか。SDGsの対策を計画するだけでなく、大胆さのある産業政策・産業化のような、大きな流れを作るような取組、大きな資源循環経済モデルを創り出すことを期待する。
- ・「富山物質循環フレームワーク」の実施に向けて、「同フレームワーク」を採択されたホスト機関である広域自治体として、既存の取組みを超えた先進的な取組が求められており、こうした方向を明確に打ち出していくことが必要。資源循環の観点から上流部の取組(Reduce)を推進していく点を明らかにされることを期待する。
- ・食品ロスへの取組、里山林整備は順調に拡大していると思われる。水産業振興と循環型経済推進がつながるとよいと期待する。
- ・資源循環、廃棄物削減の個別の取組みについて幅広く提示されているものの、例えば海産物の販売増加→発生廃棄物のエネルギー資源コンポスト等の有効利用→バイオマスエネルギーとしての活用 グリーンサプライチェーン、環境配慮型海産物の交付価値販売、富山モデルの循環経済を海産物ブランド価値に反映すること、それによる、6次産業振興、観光振興、さらに上流としての資源保全への収益配分など、産業との結びつきを考え、分野横断的なSDGs的富山モデルの循環経済型SDGsの提示を期待する。
- ・水産業の振興に資する数値の裏付けと、それを実現するための政策を整理し、中長期的な取り組みとなるよう、再度見直しされたい。単価をあげるの、一過性のイベントだけではなく、小売りと連携しながら進める必要がある。ブランド力向上を目指すのであれば、例えば収穫したものに対して確実に選別を行い、冷凍技術を発達させるなど、具体的手段を考える必要がある。具体的にどのような手段でブランド力向上に取り組もうと考えているのか。中長期的な連携体制を検討する必要がある。加えて、収穫したものをどのように運ぶか、までを考える必要がある。また、生鮮品に加え加工品も含めて、消費者が望む商品をいかに現地で生産するのかを検討することで、ブランド力向上とともに、地域の雇用が生まれることにもつながると期待する。